

# シェリーコレクション草創の頃

## 星谷剛一教授回想

石原 武

星谷先生が逝かれてもう十八年の歳月が経っている。晩年は病苦にほとほと疲れ果てたご様子で、廊下の隅で咳に苦しみ冷汗を流しておられた姿が、いまも思い出されて辛い。しかし、シェリー・コレクションの草創を語るには、先生の晩年の受難の日々を避けて通るわけにはいかない。

いつだったか、教室で咳の発作に襲われ、学生の前で意識を亡くされたことがあった。あのとき静まりかえった教室からやっと出てきた先生は、研究室の机に何時間も青ざめた顔を伏せておられた。1983年5月8日に、先生が永眠されて、私たちの研究誌「英語英文学」は星谷剛一先生追悼号を出した。その中で、もっとも親しかった成田成寿先生はこう語っておられる。「星谷君の興味は、はじめから一貫して終わったように思う。その一貫した研究も、心と体の両方の傷ついたためか、まじめ一筋、脇目もふらぬ追求の途中で終わったかと思われるのは残念である。一萩山とかいうところの病院に、ひとりで入院したのかとも思うが、喘息とかの発作がはげしくつづいて息絶えたとかいうのが本当だろうか。もう、咳をとめる注射もきかなくなったとか聞いたが、これほど孤独で切ない病気はない。自分で止めようとしても咳はとまらない。傍にいる人もなにもしてやれない。せめて傍にいる人が手をにぎってやれるくらいのもなのだ。星谷君の入院を知れば、いってやりたかった。独りで、苦しみながら息絶えたかと思うと心が痛む。」こんなに切々と星谷先生を悼んだ成田先生ももうとっくに逝ってしまって、星谷先生の仕事の意味を十分に語る人はいなくなりました。

先生が永眠されて、沼津のご実家にうかがった。あの時ご一緒だった同級生の伊藤健三先生もなくなられてしまった。先生の墓所は小

高い丘の上にあって、そこから遥かに天城の山々が五月の陽に煙って見えた。丘の裏手には富士がそびえて、夢幻的な風景だった。病苦にさいなまれた先生が、この美しい風土に帰ってきて、今度は本当にお休みになれるのだと、救われる思いがした。



星谷剛一先生（昭和49年1月18日撮影）

先生の訳詩集「ハウスマン全詩集」の一節が思い出された。

In my own shire, if I was sad,  
Homely comforters I had:  
The earth, because my heart was sore,  
Sorrowed for the son she bore;  
And standing hills, long the remain,  
Shared their short-lived comrade's pain.  
(故郷では 悲しい時 / やさしく慰める者がいた / 大地は私の心が痛むゆえ / わが子のため悲しんでくれた、 / 命永い列び立つ山々は / 命短い友の苦しみを分かってくれた—星谷剛一訳)

あの病苦の晩年、星谷先生の関心は、A.E. Housmanの *A Shropshire Lad* と P.B. Shelleyをめぐるとの評伝研究であったようだ。この仕事を、先生は平行してこなしておられ

た。A.E. Housmanは卒業論文からの課題であるらしく、先生は終生、丹念に、この悲しい抒情詩を読みつづけた。沼津の素封家の嫡子に生まれ、秀才として将来を嘱望された青年期から、先生にはHousmanの悲しく、寂しすぎる抒情詩にひかれる心情があったのであろう。P. B. Shelleyについても青年期からの関心は一貫していて衰えることはなかったようだ。あの革命児の愛の詩世界から、病に顔を青黒くされてからも離れることがなかった。思えば、HousmanとShelleyは、先生の心の両極にあって、その陰と陽、あるいは静と動が、先生の英文学の、たたずまいであったのであろう。

Shelley研究のためなら、先生は時間も金も惜しみなく使われたようだ。長年集めた評伝などの研究書が増えたとおっしゃりながら、文教大学からの研究費は、全部ShelleyおよびShelley's Circleの関係書にあてておられ

た。かつてShelleyの名訳詩集を出している先生は、晩年の仕事はすべてShelleyとShelley's Circleの評伝に集中していた。私たちの研究誌「英語英文学」に、その研究の成果を毎年必ず発表なさっていた。1972年に、Housman、1974年に、Arthur Hugh Cloughを発表した後は、すべてShelleyとその周辺に一貫している。そのリストを掲げてみよう。

ShelleyとByron「英語英文学」4号

昭和51年（1976）

ShelleyとHarriet「英語英文学」5号

昭和52年（1977）

ShelleyとTrelawny「英語英文学」6号

昭和53年（1978）

ShelleyとMary「英語英文学」7号

昭和54年（1979）

ShelleyとHogg「英語英文学」8号

昭和55年（1980）

ShelleyとLeigh Hunt「英語英文学」9号

昭和56年（1981）

ShelleyとKeats「英語英文学」10号

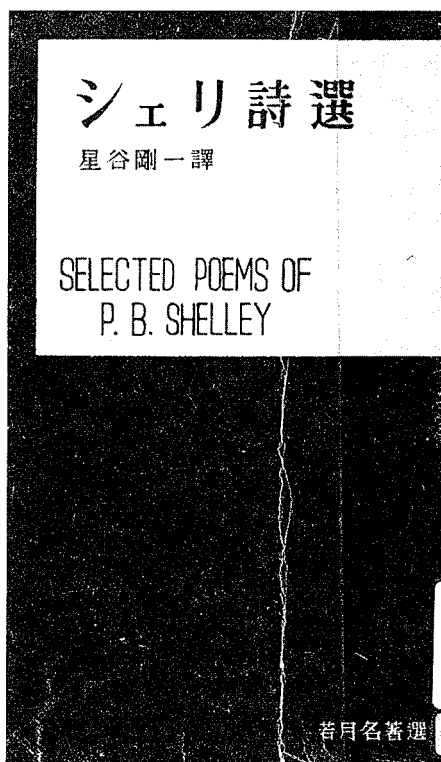
昭和57年（1982）

最後の「ShelleyとKeats」を発表したのが、昭和57年の12月、その翌年5月、先生は帰らぬ人になられた。

ご逝去のあと、ご遺族から先生の蔵書を寄贈したいとお申し出があり、昭和60年（1985）12月、星谷剛一旧蔵シェリー関係図書書の整理が終わり、*Shelley and Shelleyana* (A Catalogue of Printed Books collected by Goichi Hoshiya in the Bunkyo University Koshigaya Library)として、図書目録が完成し、シェリー文庫は生れたのである。目録は、扉にAmelia Curran

によって、1819年、ローマで描かれた若いシェリー像を飾り、瀟洒な出来映えで、星谷先生を親しく知るものとして嬉しかった。内容はShelleyとかれの周辺のロマン派に関する洋書が約490冊、和書が40冊で、English Romantistsのpoetical worksやbiographical studies、それにロマン派研究書などなど、研究者にはまさに垂涎の書物ばかりであった。たまたま、私が図書館長の職務にあつたので、「シェリー・コレクション」の運営について、どうしたら、星谷先生の志を生かせるか、図書館課長の松田上雄氏と相談し、次の諸点を確認した。

\*内外のShelleyおよびロマン派の研究者を始め、学生、市民に文庫を開放し、閲覧に供



シェリ詩選／星谷剛一訳、若月書店、1951

する。そのためには、限られた予算を有効に執行して、文庫の充実に努力する必要がある。文庫の活動を活性化するため、*Letters of the Shelley Collection*を発刊する。これには、学内の研究者のみならず、全国的にShelleyを愛する方々に執筆をお願いする。また新収図書目録を毎号広報する。

この方針に添って、松田氏は図書情報を丹念に検索し、ときには稀覯本を含めて、漸次充実させ、名実ともに、「シェリー・コレクション」の体制を作り上げた。その後、歴代の担当者が緊縮予算をやりくりして努力を重ね今日に至ったのである。その間、Shelley研究の碩学石川重俊先生を始め、多くの優れたShelley学者の称揚するところとなり、この国の代表的なシェリー文庫の一つに数えられるに至ったことは嬉しい限りである。泉下の星谷先生も満足なさっていることと思う。

*Letters of the Shelley Collection*のNumber 1は、1987年2月に出ている。文科大学の本田和也教授が、Shelleyの*Julian and Maddalo*の対話詩について、さわやかな文章を書いている。その後に、私がFunny Imlayという薄倖な女性の話、星谷先生から頂いたお零れのように、載せている。GodwinとShelleyの間にちらっと寂しい顔を見せて消えていった少女のことを、「シェリー・コレクション」の書架の間で、Edward Dowdenの*The Life of Percy Bysshe Shelley*の拾い読みで知った。そのことはいつまでも頭を離れず、「シェリーからの時計」という文章に書いたのだった。

時々、あの重厚な書物たちに挨拶をしたくなって、「シェリー・コレクション」の書架の間を今もさまよっている。星谷先生には懐かしい書物たちであろう。手にとってみると、(いま手にあるのは、L.S. Boasによる*Harriet Shelley: Five Long Years*であるが)細かい注釈やマークがほどこされ、Shelley詩学への執心のほどがうかがわれる。先生は何故これほどまでにShelleyとその周辺の生と愛、そして死に心をこめたのか、薄倖な英文学者の晩年の沈黙の肖像を思いかえしている。

## シェリー・コレクション

### 新収図書目録

2000年

#### Shelley's Works

*The Poems of Shelley* / ed. by Geoffrey Matthew and Kelvin Everest. London: Longman, 2000, vol.2-vol.3

#### On Shelley

*Romantic Returns: Superstition, Imagination, History* / Deborah Elise White. US: Stanford Univ. Pr., 2000.11, 282p.

#### Romantic Movement

*Radical Food: The culture and politics of eating and drinking 1780-1830* / ed. by Timothy Morton. UK: Routledge & Thoemmes, 2000.6, 4vols.

#### Shelley's Circle

*Jane Austen and Mary Shelley and Their Sisters* / ed. by Laura Dabundo. USA: Univ. Pr. Of America, 2000, 192p.

*The Mental Anatomies of William Godwin and Mary Shelley* / Wilham D. Brewer. USA: Fairleigh Dickinson Univ. Pr., 2001

*Mary Shelley in Her Times* / ed. by Betty T. Bennett and Stuart Curran. US: Johns Hopkins Univ. Pr., 2000.7, 312p.

*Mary Shelley's Fictions: From Frankenstein to Falkner* / ed. by Michael Eberle-Sinatra. UK: Macmillan, 2000.6, 272p.

*Mary Wollstonecraft: A Revolutionary Life* / Janet Todd. UK: Weidenfeld & Nicolson, 2000.3, 448p.

\*上記洋書は現在発注中です  
和書

イギリス・ロマン派の研究 / 薬師川虹一著。世界思想社, 2000.4, 577p.

解き放たれたプロミシユース / Percy Bysshe Shelley [著]; 田中宏, 古我正和共訳。大阪教育出版, 2000.1, 226p.

#### 中国書

雪莱抒情诗选 / 查良铮译。人民文学出版社, 1995.5, 301p